

特長

- メンテナンスフリー
リレー制御盤のような配線作業が不用です。無接点化によりメンテナンスフリーを実現しました。
- モータ容量がワイドに選択できます
1Wから90Wまで対応でき、40W以上のモータでもブレーキトルクスイッチにより選択可能ができます。ブレーキ抵抗が不用で配線作業が簡単です。
- 盤設計が標準化できます
DINサイズ寸法で制御盤の設計ができ、トータルコストが安くつきます。
- 豊富なオプション群があります
盤内だけでなく、取付枠を使うと盤面にも取り付けが可能です。
- ソフトブレーキ機能があります
ブレーキの衝撃が強すぎるときは、ブレーキトルクスイッチにより「LOW」に切り替えるとブレーキトルクが低減します。
- ブレーキ時間
操作の簡単な切替スイッチで行えます。



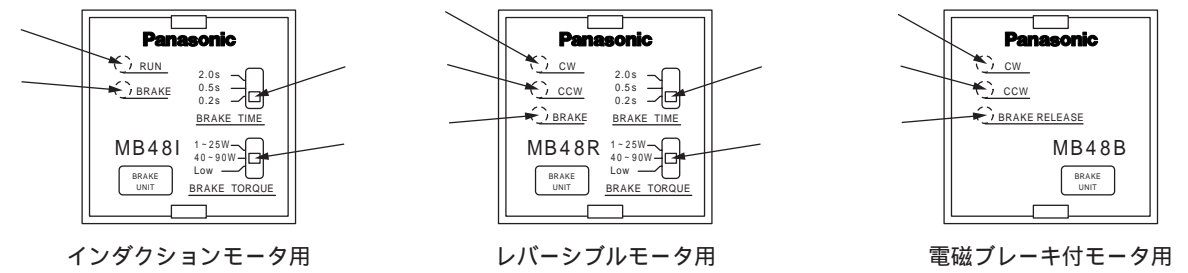
仕様と標準価格

特性	品番	DVMB481L	DVMB481Y	DVMB48RL	DVMB48RY	DVMB48BL	DVMB48BY
定格電圧		単相AC100V	単相AC200V	単相AC100V	単相AC200V	単相AC100V	単相AC200V
使用電圧範囲		±10% (定格電圧に対して)					
電源周波数		50/60Hz					
適用モータ		インダクションモータ	レバーシブルモータ	電磁ブレーキ付モータ			
適用モータの切替		切替スイッチにて切替	1W~25W 40W~90W LOW	---			
電気ブレーキ動作時間		切替スイッチにて切替 2/0.5/0.2秒	---				
正逆運転		×					
電気ブレーキ				×			
電磁ブレーキ駆動		×	×				
制御入力電圧		DC12~24V (±10%)					
使用周囲温度		-10 ~ 40					
保存温度		-20 ~ 60					
使用湿度範囲		85%RH以下 (結露なきこと)					
標準価格(円)		12,390	14,280	13,650	14,490	12,810	13,650

- [注]
- 電気ブレーキには、保持力がありません。
 - 保持力の必要な場合は、弊社製品の電磁ブレーキ付モータを使用してください。
 - 特に大きな慣性の負荷を制動するとき、モータ軸およびギヤの強度または寿命が問題になる場合がありますので、弊社にお問い合わせください。
 - 小形ギヤードモータ以外を使用するときは、お問い合わせください。

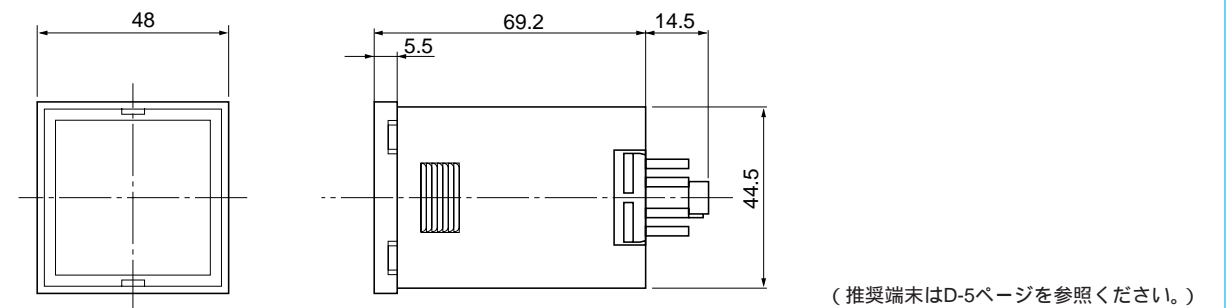
ご使用に際し必ず「取扱説明書」をお読み頂き注意事項を十分ご確認の上、正しくお使いください。

各部の名称とはたらき

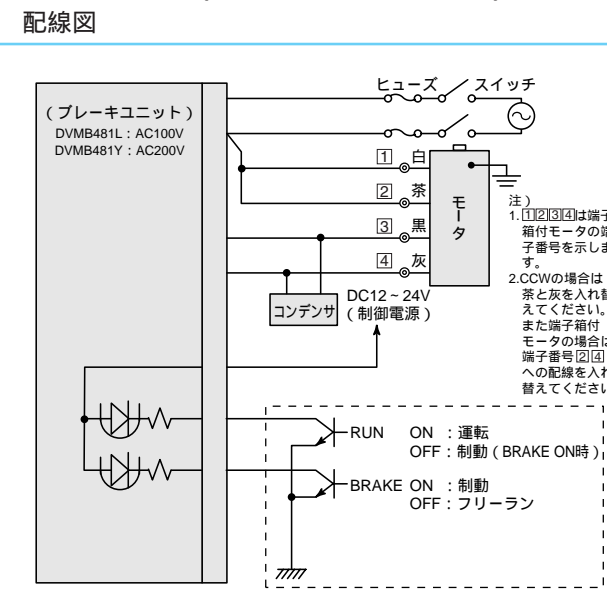


名称	はたらき
1 CWランプ	モータ出力軸がCW方向に運転中であることを表示します
2 CCWランプ	モータ出力軸がCCW方向に運転中であることを表示します
3 BRAKEランプ	電気ブレーキが動作中であることを表示します
4 RUNランプ	モータが運転中であることを表示します
5 BRAKE RELEASEランプ	電磁ブレーキに通電中であることを表示します (電磁ブレーキに通電すると制動を解除します)
6 ブレーキ時間調整	負荷の慣性に応じて電気ブレーキの動作時間を調整してください 通常は0.2s (秒) で使用してください
7 ブレーキトルク調整 (モータ容量の切替)	1~25W 1Wから25Wまでのモータ 40~90W 40Wから90Wまでのモータ Low 1Wから90Wまでのモータでブレーキ時の衝撃を低減する場合

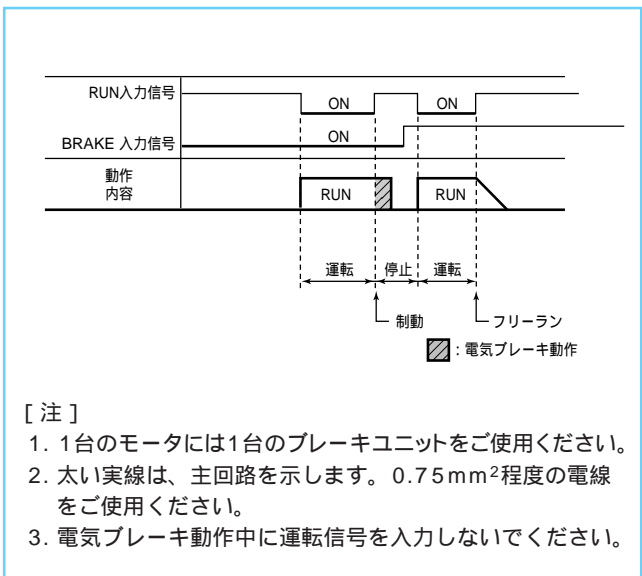
外形寸法図



基本電気配線(インダクションモータ)



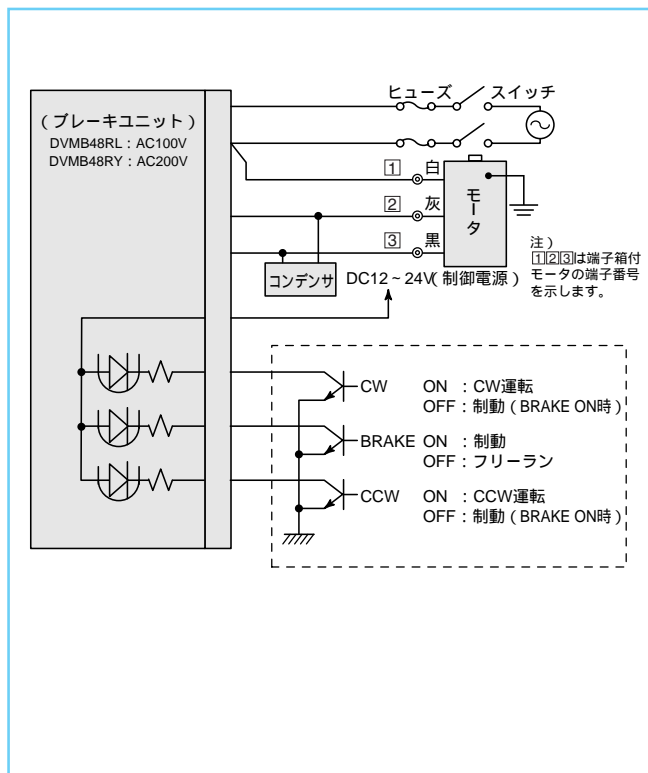
運転方法



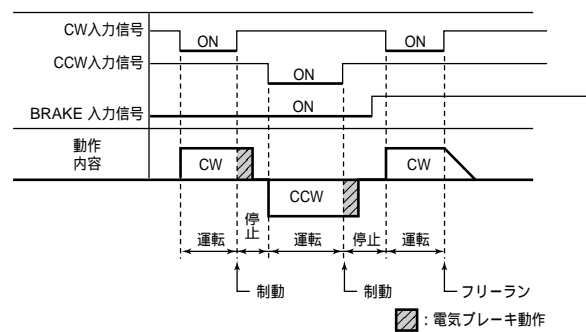
ご使用に際し必ず「取扱説明書」をお読み頂き注意事項を十分ご確認の上、正しくお使いください。

基本電気配線(レバーシプルモータ)

配線図



運転方法

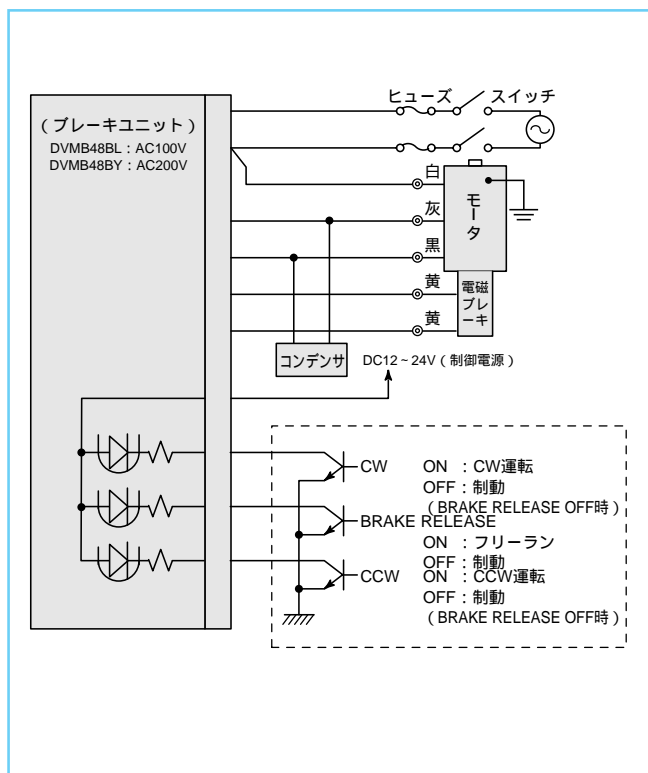


[注]

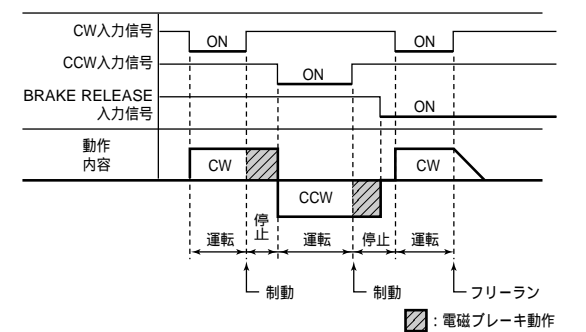
- 1台のモータには1台のブレーキユニットをご使用ください。
- 太い実線は、主回路を示します。0.75mm²程度の電線をご使用ください。
- CW運転信号とCCW運転信号を同時に入力しないでください。モータは回転しませんが、過大な電流が流れ、焼損する場合があります。
- 電気ブレーキ動作中に、回転方向の切替および運転指令を入力しないでください。

基本配気配線(電磁ブレーキ付モータ)

配線図



運転方法



[注]

- 1台のモータには1台のブレーキユニットをご使用ください。
- 太い実線は、主回路を示します。0.75mm²程度の電線をご使用ください。
- CW運転信号とCCW運転信号を同時に入力しないでください。モータは回転しませんが、過大な電流が流れ、焼損する場合があります。